

天涯の海

酢屋三代の物語

「粕酢」に挑んだ
三人の又左衛門と
彼らを支えた
女たち。

江戸の酒文化を
一変させた
変革と挑戦

世界に誇る
「江戸前寿司」は
など誕生したのか

車浮代
KURUMAI UKIYO



半田市議会議員

こいで よしかず 義の

市政あれこれ

60
number



発行日：2024年4月20日

発行所：愛知県半田市瑞穂町5-3-18

連絡先：愛知県半田市新池町2-201-22

歴史から学び誇りが生まれる...

文化財の保存活用で地域づくり

文化財はその歴史に目を向けた活用を

粕酢で江戸前寿司を変えたミツカンの歴史が、車浮代さんの小説「天涯の海」に描かれています。ぜひ皆さんにもその歴史に触れて頂きたいと思います。

ミツカン創業者の中笠又左衛門の他にも半田市の歴史を紡いだ先人は数多くいます。

新田開発から酒造りが始まりました…

小栗三郎兵衛は元禄年間に、臨海部に康衛新田を開発しています。新田から採れた米を原料に酒造りが始まり、やがて灘や伏見の酒と江戸市場を争うようになります。醸造の町の始まりです。

経済活動とともに文化形成にも

間瀬作右衛門は江戸期より代々材木商を営み、明治期には朝倉屋として味噌醤油の醸造をするなど、地元の経済・文化を牽引しています。神前神社の大鳥居には三代目作右衛門の名があり、地域経済への功績を偲ぶことができます。

海運業・醸造業を営んだ中笠半六は、半田運河一帯の整備に取組んだ方です。

半六が明治末期に天王町に建てた洋風住宅は重要文化財に認定されており、中村

町の邸宅も昨年有形文化財に認定されました。

まずは保存活用地域計画の策定から

建物などは文化財として指定されていますが、そのあるじ達の功績にももっと目を向ける必要があると思います。

この建物のあるじ達は経済活動のみならず、地域文化の形成にも大きく貢献しています。文化財の保存と併せて、シックフライドの醸成のための活用が必要で

文化庁は文化財保存活用地域計画策定を奨めており、全国で139の自治体が活用計画の認定を受けています。半田市においても、「文化財保存活用地域計画」を策定し、先人達の歴史を語り継ぎ、魅力ある町づくりを進めていきます。



エリアで分割して活用している先進事例を参考に…

環境に配慮した都市近郊型酪農を目指して

バクテリアを活用した臭気改善を

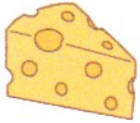
先進的な畜産臭気対策を行っている長野県安曇野市を視察して参りました。この視察で、速かに糞と尿を分離させることで腐敗臭を抑え、微生物による好気発酵を促すことで臭気成分も分解されることを確認しました。畜産臭気の改善は住みよい町、選ばれる町になるための必須対策です

循環型サイクルの整備が必要!!

糞は微生物の働きで堆肥や土壌改良材になります。また堆肥に対価が支払われることで、単なる「糞尿処理」ではなく「堆肥生産」という事業にもなります。

しかし、糞から堆肥を製造しても、供給先が確保されていないと保管場所の確保も容易ではなく、活用も進みません。

この地域の農業は、畜産の生産高が8割・種耕の生産高は2割程度です。堆肥の利用を進めるためには循環型サイクルの整備に取組む必要があります。



地域の産業を活かして...

安曇野市における悪臭対策の取り組み



行政の役割は仕組みづくり!!

畜産業はこの地域の発展を支えてきた大事な仕事です。農村地域の都市化・住宅地の近接を進めてきた行政の役割は畜産農家と関連業種の皆さん、そして地域の方々をつなげる仕組みを作ることです。

循環型の仕組みをつくるための課題として、①堆肥再利用対象エリアを西三河まで拡大 ②バイオマス発電の利用拡大 ③燃料や建材などの用途開発 が上げられると思います。

6次産業化を目指したビジネスモデルを!!

この地域の畜産は、食肉や乳製品の加工メーカーとも歩んできました。畜産農家が生産に専念する環境ですが、大量消費地に近い地域特性を活かしたビジネスモデルの開発も必要です。

環境に配慮した都市近郊型酪農を実践している地域もあります。農場見学や体験農業、観光農園などを6次産業化のビジネスモデルとして捉え、支援していく必要があります。



新たなビジネスモデルを...

こちらもご覧ください。

<https://koide-handa.com>